

(19)日本国特許庁 (JP)

(12) 公開特許公報 (A)

(11)特許出願公開番号

特開2001-272973

(P2001-272973A)

(43)公開日 平成13年10月5日 (2001.10.5)

(51)Int.Cl.⁷

G 10 D 7/04
9/00

識別記号

F I

マーク-ト[®](参考)

G 10 D 7/04
9/00

E

審査請求 未請求 請求項の数2 書面 (全3頁)

(21)出願番号 特願2000-128570(P2000-128570)

(22)出願日 平成12年3月27日 (2000.3.27)

(71)出願人 500215171

平本 孝雄

茨城県笠間市笠間2192-6

(71)出願人 500215182

平本 孝太

茨城県笠間市笠間2192-6

(72)発明者 平本 孝雄

茨城県笠間市笠間2192-6

(72)発明者 平本 孝太

茨城県笠間市笠間2192-6

(74)代理人 100079739

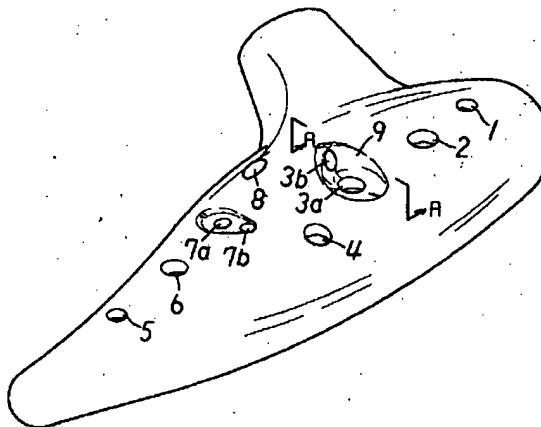
弁理士 山田 康生

(54)【発明の名称】 オカリーナ

(57)【要約】

【課題】 オカリーナにおいて指元側の指穴と指先側の指穴のやや先方に指先側の指穴を併設する場合、だれでも容易に二つの指穴を同時にふさぐことができるようとする。

【解決手段】 左手用の薬指穴3a・3bを設ける位置に浅いくぼみ9を横断方向へ形成している。くぼみ9の指先側は薬指の指先の腹形状にはば沿った形状に湾曲させながらやや盛り上げている。やや盛り上げた部分に指先側の薬指穴3bを設け、薬指穴3bに近接した指元側寄りに指元側の薬指穴3aを設けている。オカリーナを両手で持つとき、左手の薬指はくぼみ9の位置に位置させる。指先側の薬指穴3bも共にふさぐには、單にくぼみ9に沿って薬指を前進させる。指先がくぼみ9の先方の湾曲面に当たったところで前進が止まり、このとき自動的に指先側の薬指穴3bもふさいでいる。



【特許請求の範囲】

【請求項1】 指元側の指穴と指元側の指穴のやや先方に指先側の指穴を併設する場合、指先側の指穴を設ける位置において先方へ向け指先の腹形状にはほぼ沿った形状に湾曲させながらやや盛り上げ、やや盛り上げた部分に指先側の指穴を設けて指先側の指穴に近接した指元側寄りに指元側の指穴を設けたオカリーナ。

【請求項2】 指元側の指穴と指元側の指穴のやや先方に指先側の指穴を併設する場合、両指穴を併設する位置において指がちょうどはまる大きさとしたくぼみを横断方向へ形成し、くぼみの先方側は先方へ向け指先の腹形状にはほぼ沿った形状に湾曲させながらやや盛り上げ、やや盛り上げた部分に指先側の指穴を設けて指先側の指穴に近接した指元側寄りに指元側の指穴を設けたオカリーナ。

【発明の詳細な説明】

【0001】

【発明の属する技術分野】本発明は、オカリーナに関するものである。

【0002】

【従来の技術】本発明は、オカリーナにおいて指元側の指穴と指元側の指穴のやや先方に指先側の指穴を併設する場合に、指先側の指穴をふさぎ易くするためのものである。図1は本発明の1実施例を示す斜視図であるが、図1を借りて従来のオカリーナの1例を説明する。図1に示すオカリーナにおいては、左手・右手の人差指・中指・薬指・小指でふさぐ指穴を表側にそれぞれ設けている。まず、左手用の人差指穴1、中指穴2、薬指穴3a・3b、小指穴4を一端側から並べてそれぞれ設けている。また、右手用の小指穴5、薬指穴6、中指穴7a・7b、人差指穴8を他端側からそれぞれ設けている。

【0003】ところで、従来のオカリーナにおいては、左手用の二つの薬指穴3a・3bは図示したものとは異なり、右手用の二つの中指穴7a・7bと同様にほぼ平面又はやや膨らんだ面に沿って設けている。

【0004】

【発明が解決しようとする課題】前記従来のオカリーナを用いて演奏する場合、左手の薬指で二つの薬指穴3a・3bを同時にふさぐとき、指元側の薬指穴3bは容易にふさぐことができても指先側の薬指穴3bは完全にはふさぐことができず空気が漏れ、目的の音をなかなか出せないこともある。指先の腹が指先側の薬指穴3bから上方へ離れる方向に湾曲しているためである。特に指の短い人にこの傾向が強く、正確な音色を出すのが大変難しくなる。

【0005】本発明が解決しようとする課題は、指元側の指穴と指元側の指穴のやや先方に指先側の指穴を併設する場合に、だれでも容易に二つの指穴を同時にふさぐことができるようしたオカリーナを提供する点にある。

【0006】

【課題を解決するための手段】請求項1に係るオカリーナにおいては、指先側の指穴を設ける位置において先方へ向け指先の腹形状にはほぼ沿った形状に湾曲させながらやや盛り上げ、やや盛り上げた部分に指先側の指穴を設けて指先側の指穴に近接した指元側寄りに指元側の指穴を設けている。指元側の指穴と共に指先側の指穴もふさぐには、単に指を前進させればよい。指先が先方の湾曲面に当たったところで前進が止まり、このとき自動的に両指穴をふさいでいる。

【0007】請求項2に係るオカリーナにおいては、両指穴を併設する位置において指がちょうどはまる大きさとしたくぼみを横断方向へ形成し、くぼみの先方側は先方へ向け指先の腹形状にはほぼ沿った形状に湾曲させながらやや盛り上げ、やや盛り上げた部分に指先側の指穴を設けて指先側の指穴に近接した指元側寄りに指元側の指穴を設けている。内外の指穴を共にふさぐには、単にくぼみに沿って指を前進させればよい。指先がくぼみの先方の湾曲面に当たったところで前進が止まり、このとき自動的に内外の指穴をふさいでいる。くぼみが指の移動をガイドするため、操作が楽である。

【0008】

【発明の実施の形態】請求項1に係るオカリーナは、指元側の指穴と指元側の指穴のやや先方に指先側の指穴を併設する場合、指先側の指穴を設ける位置において先方へ向け指先の腹形状にはほぼ沿った形状に湾曲させながらやや盛り上げ、やや盛り上げた部分に指先側の指穴を設けて指先側の指穴に近接した指元側寄りに指元側の指穴を設けたものである。

【0009】請求項2に係るオカリーナは、指元側の指穴と指元側の指穴のやや先方に指先側の指穴を併設する場合、両指穴を併設する位置において指がちょうどはまる大きさとしたくぼみを横断方向へ形成し、くぼみの先方側は先方へ向け指先の腹形状にはほぼ沿った形状に湾曲させながらやや盛り上げ、やや盛り上げた部分に指先側の指穴を設けて指先側の指穴に近接した指元側寄りに指元側の指穴を設けたものである。

【0010】本発明は1本の指用の指穴を二つ併設する場合に適用するものであるが、特に薬指用の指穴に適用するのに最適である。しかし、中指用等に適用することもできる。

【0011】

【実施例】本発明の1実施例を図1・2に基づいて説明する。図1はその実施例を示す斜視図、図2は図1のA-A拡大断面図である。従来の技術の欄で説明したとおり、オカリーナの表側に左手用の人差指穴1、中指穴2、薬指穴3a・3b、小指穴4を一端側からそれぞれ並べて設け、右手用の小指穴5、薬指穴6、中指穴7a・7b、人差指穴8を他端側からそれぞれ設けている。

50 図2がはっきり示すように、左手用の薬指穴3a・3b

3

を設ける位置において薬指がちょうどはまる大きさとした浅いくぼみ9を横断方向へ形成し、くぼみ9の指先側は薬指の指先の腹形状にはほぼ沿った形状に湾曲させながらやや盛り上げている。そして、やや盛り上げた部分に指先側の薬指穴3bを設け、薬指穴3bに近接した指元側寄りに指元側の薬指穴3aを設けている。

【0012】以上の中のは次のように操作する。オカリーナを両手で持つとき、左手の薬指はくぼみ9の位置に位置させる。そして、指元側の薬指穴3aだけふさぐ際は従来のものと同じ操作をする。指先側の薬指穴3bも共にふさぐには、單にくぼみ9に沿って薬指を前進させればよい。指先がくぼみ9の先方の湾曲面に当たったところで前進が止まり、このとき自動的に指先側の薬指穴3bもふさいでいる。

【0013】

4

【発明の効果】本発明に係るオカリーナにおいては、だれでも容易に二つの指穴を同時にふさぐことができる。

【図面の簡単な説明】

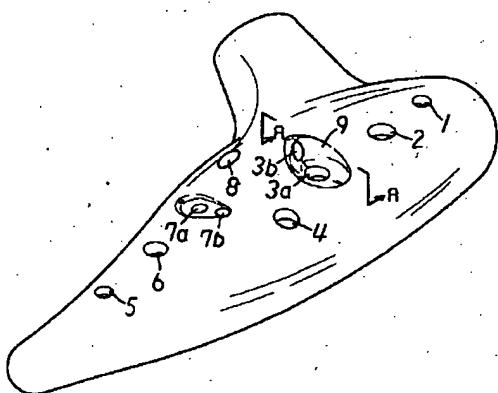
【図1】本発明の1実施例を示す斜視図である。

【図2】図1のA-A拡大断面図である。

【符号の説明】

- | | |
|-------|------|
| 1 | 人差指穴 |
| 2 | 中指穴 |
| 3a・3b | 薬指穴 |
| 4 | 小指穴 |
| 5 | 小指穴 |
| 6 | 薬指穴 |
| 7a・7b | 中指穴 |
| 8 | 人差指穴 |

【図1】



【図2】

